

仙台から始まる「出会いの風」

SIRAWIND

春 2008 SPRING 号

2008
vol.66

2008年4月1日発行



01

特集

高校生の 国際交流・国際理解 — 市内各校の取り組み —

04

みんなの環

05

シリーズ人

07

SIRA INFORMATION

11

プロが教えるお手軽レシピ

世界のおはなし

第4話

ベトナム

「百、節のある竹」

ある忠実な召使の男。主人から「3年間、一生懸命に働いたら、私の娘と結婚させてやろう」と言われて、喜びます。来る日も来る日も朝から晩まで、田畑や森で、せっせと仕事に励みます。約束の3年が経ちましたが、主人から「おまゝの祝宴に使うため、百の節のある長い竹を見つけて持ち帰ったら、今度こそ娘と結婚させてやろう」と無理難題を出されてしまいます。主人は、娘をこっそり別の金持ちの男と婚約させますが、何も知らない召使の男は、竹を探しに森へと向かいます。彼は幸せを見つけることができるのでしょうか？

仙台国際センター 1F 交流コーナーで貸出しています。(日本語、ベトナム語)

高校生の国際交流・国際理解

— 市内各校の取り組み —

2007年は、仙台の国際姉妹友好都市から多くの若者が来仙し、市内の高校を訪れた年でした。姉妹都市といっかけ以外にも、スポーツや芸術、国際協力やスタディツアーと、各校の特色を活かした交流が進められています。身近になっている高校生の国際交流。直接会って話したり、遠い国に思いを届けたり、方法も様々ならそこから何を感じて何を得るかも十人十色です。違う文化に出会って、どんな日本が見えたでしょう？いくつかの取り組みと、生徒たちの声をご紹介します。



尚綱学院生たち。アイスで親を亡くした子どもたちと一緒に。

1. 尚綱学院高等学校

2006年から始まった、タイへのスタディツアー。2007年には、同学院の中学生から大学生までの8名が参加しました。チェンマイとその奥の村で、学校、エイズ感染者・孤児保護施設、女性の職業訓練・自立支援施設等を訪れ、ホームステイも体験しました。「あちらでは暑気の3月が夏休みで、その時期に実施しています。目的は二つあって、私たちと違う文化を見せたいということ、うちはキリスト教系の学校なのですが、国を超えてキリスト教徒の同じ人間として学びあうことがあるのではないかとということです。事前に現地のことは説明しますが、やはりカルチャーショックは大きいですが、でも、便利なものが色々あることだけが良いことではないと気づいてくれましたし、自然や人の温かさに触れて、生徒たちも穏やかになったかな」と同行した佐藤洋晴教諭。



高橋さん（左）と中濱さん。手にしているのはタイの学校から贈られたカリンギター。

昨年参加し、タイがすっかり気に入った中濱碧さん（3月卒業）と高橋史佳さん（4月から3年生）。今年3月に予定されている2度目の訪問を目前にして、前回の思い出を昨日のことのように話してくれました。

中濱さん「海外旅行は初めてでしたが、ホームステイでは断水で蛇口から水が出なかったことにまず驚き、お風呂もありませんでした。訪れた学校では、生徒たちが自分たちの寮を作っていたんですけど、それが竹で出来ていたんです。互いにあまり英語はできなかったけれど、不思議なもので指差し会話で通じました。これは日本語で何というの？とか、言葉を教えあうことが多かったです。タイの高校生はすごく面倒見が良く、兄弟だけでなくそばにいる子どもたちにも親切でした」

高橋さん「もう、どっぷりはまりました。時間がゆっくりしていて気候も良く、ステイ先のお母さんが作ってくれる料理もすごくおいしい！村の生活は、テレビも携帯電話もなかったけど、ないならいって何とかなる、行けば余裕です（笑）。みんなまじめで優しく、日本にも興味を示してくれて、持って行ったブリクラとか折り紙で盛り上がりました。色々な所に行って、同じ年齢なのに全然違う環境で生きていることに驚きました。今度行っ

たら、学校の子たちともしっかり話したいです」



ステイ先で遊んだ福笑い

2. 仙台市立仙台高等学校

同じ市立高校で姉妹都市のアメリカ・リバサイド市にあるという縁で、2004年にノース高校と姉妹校提携をした同校。野球、ソフトボール、バスケットボールと続いている運動部同士を中心とした交流は、異文化や外国語が当たり前のように身近にあるノース高校からの希望でもあり、同じ競技を通して、また、互いに積極的な性格の生徒が多いとのことで、すぐに仲良くなるそうです。今年リバサイドから、30名ものサッカー部員が訪れる予定です。



ステイ中のジェイソンさん（左）と梶原さん（中央）

4月から3年生の梶原あずさんは、弓道部員ということで同じスポーツをする機会はなかったものの、2006年にソフトボール部員の女子生徒たちに加わって来仙した、たった一人の男子生徒のホストチューデントになりました。

梶原さん「姉が高校生のときに、海外の高校生を3回ホームステイさせて楽しかったので、やってみました。前にステイした男の子は、明るくて見た目も幼く弟のようでしたが、僕が受け入れたジェイソンは冷静で、日本の高校生より大人っぽく感じました。

あれは何？これは何？と色々なものに興味を見せていて、地引網のイベントと一緒にいったら、日本の海は波が高くてすごく迫力があると言っていました。言葉の問題等、結構大変でしたが、僕はこれまで近づけにくかったことに積極的になれたように思います」



来仙したソフトボールチーム

3. 仙台白百合学園高等学校

ソウルとマニラに姉妹校を持つ同校では、1年おきにそれぞれの学校を訪れています。長谷川結さんと白石千尋さん（共に4月から3年生）は、昨年夏にフィリピンへのスタディツアーに参加しました。姉妹校の他、姉妹校が運営する貧しい地区の子どもたちが通う小学校や親のいない障害児施設、バナナ農園や山岳少数民族のアエタ族の村等を訪問しました。

長谷川さん「みんな日本のことを好いてくれていて、芸能人やキャラクターとか、よく知っていました。学校では、学年の差がなくてみんな仲がいいと思いました。“Chosen Children”という障害児施設を見学していたら、男の子が抱きついてきたのですが、体重がとても軽くて驚きました。それでも初対面の私に寄ってくる人懐こさがありました。マニラ近郊のバナナ農園も見学しました。そこではないのですが、フィリピン南部には厳しい労働環境で働かされている農園もあるそうで、日本ではとても安いバナナが食べられるけれど、そういう現実があることを知って、フェアトレードにも関心を持つようになりました」

白石さん「フィリピンの朝は早く、5時くらいに起こされて7時には学校に人が来ています。ステイ先ではお手伝いさんが料理を作っていて、1日に5回も食事が出て驚きましたが、“6回くらい食べるのは普通よ”なんて言われました。心に残っているのは、アエタ族の子どもたちの目や笑顔が、きらきらと輝いていたことです。私は放送部に所属していますが、直接触れ合ってもまず知ることが大事。ツアーのことやパレスチナのろう学校のこと、番組にしたりして知ってもらいたいです」

白石さんは今回の出会いで感じたことやボランティアのあり方について気づいたことを「ForではなくWithの心で」と題し、県の国際理解のための弁論大会に出場して優勝、全国大会で上位入賞し、取材の翌日には副賞としての国連本部視察を控えていました。



長谷川さん（貧しい地区に住む子どもたちと）

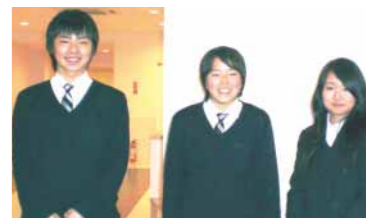
生徒会が中心となり学園祭等で資金を集め、市内のNGOと連携して5年前からパレスチナ・ガザ地区のろう学校へ給食費の寄付を続けている。今年1月には現地から校長が来校して子どもたちの様子を語り、活動がより身近に感じられたとのこと。



白石さん（アエタ族の村で）

4. 聖ウルスラ学院英智高等学校

昨年の7月、姉妹都市提携40周年を迎えたフランス・レンヌ市から11名の青少年が、フランス語の授業がある同校を訪れました。1日という限られた時間の



左から久保田さん、佐藤萌さん、佐藤百合さん

中で、一行はフランス語授業に参加、茶道や習字の体験、剣道部見学と、日本文化をたっぷり味わいました。フランス語を教える大槻多恵子教諭は「45分という時間でしたが、10年後の自分をテーマにしたトークでは、レンヌの子も“沖縄に住んで、フランス語は忘れて...”等と上手に話し、クラスに溶け込んでいました」と振り返ります。

ホームステイや授業で交流した3人は、そのときの印象をこう話します。

佐藤百合さん（3月卒業）「私はフランス語の授業をとっていないので、ホームステイに来た子とは英語で話していましたが、独特のアクセントがあって、聞き取りに苦労しました。あまり自分から話す子ではなかったので、私の方から話しかけるようにしていました。その子は日本のビジュアル系バンドが好きで、そういう店に連れて行ったりしました」

久保田達也さん（4月から2年生）「出迎えのときにフランス国歌の演奏があり、僕はランペットを担当しました。その後、フランス語でスピーチをしましたが、伝わったみたいだし拍手ももらって、うれしかったです。レンヌの人たちの発音を直に聞いたのも良かったです。第一印象は、“大きい”でしたが、幼い雰囲気の子もいて、人気のあるテレビゲームや勉強のことなど、日本と変わらないと感じたことも多かったです」

佐藤萌さん（4月から2年生）「一緒に授業を受けましたが、レンヌの人たちは自分からよく発言していました。また、お金の使い方が慎重で、よく品定めをしていて無駄遣いが少ないと思いました。来月には、私もフランスの家庭にホームステイする予定です。ステイ先の子と同じ学校にも行けるので、とにかく現地の普通の生活を体験してみたいです」



フランス語授業

5. 明成高等学校

仙台七夕で賑わう昨年8月、姉妹都市の韓国・光州からやって来た18名の高校生たちが、同校内の「リエゾン・キッチン」で生徒たちと一緒にオリジナルメニューの食事を作りました。交流行事を担当した横山鏡子教諭は「調理に入ってしまうとすぐに打ち解け、見分けもつかないくらいで、ああ同じ高校生だなと感じました」と話します。「食」という共通の大事なテーマで、様々なことにつながっていきます。料理は国の内外を問わず誰でも活動できて、表現もしやすいんです」と語るのは、調理科の高橋信壮教諭。他にも、地元の小学生やフィリピンからの高校生等と幅広い食の交流を通して、仙台の食材を地域や海外にもPRしているそうです。今春には生徒たちが光州へ招待を受けているとのことで、今後の交流も期待されています。

調理科の高橋真美さん、三浦千春さん、最上めぐみさんは、4月から3年生になります。外国の高校生と接するのはこれが初めてだったそうです。

高橋さん「七夕の短冊に願い事を書いてもらったら、“南

北統一”とか日本の高校生とはちょっと違うことを書いている人がいて印象的でした。“夏休みがずっと続きますように”とか普通のことを書いてる人もいましたけど(笑)。知り合った人たちは今でもメールでやりとりしていて、テレビ、クリスマスやお正月の過ごし方、流行っている遊び...色々なことを書いています。ある人は日本語にはまっていて、最近は関西弁とか博多弁で書いてきたりして、すごいんです！」

三浦さん「韓国語は分からないし、英語にも自信がないので初めは不安だったけれど、好きな日本人アーティストが同じだったりして、仲良くなれました。調理したライスサンドに入れたカクテキがおいしかったので、今度は本場のものを味わってみたいですね。自分自身とても楽しかったし、私が卒業した後も続けたいと思います」

最上さん「光州の高校生たちは、とってもフレンドリーで、すぐに仲良くなれる雰囲気でした。日本語を勉強している人が多いことに、驚きました。味見するとき指にとることに抵抗がある人もいたりして、ちょっとした文化の違いもありましたが、料理を楽しむ気持ちは変わりませんでした。私が教わることもたくさんありました」



左から三浦さん、最上さん、高橋さん



カクテキ&味噌カツのライスサンド作り



完成した料理を前にする両市の生徒たち。調理科の生徒がデザインしてプレゼントした、お揃いのTシャツを着て。

体験は必ずしも形になって残るものばかりではなく、すぐに行動や結果につながることもあれば、ずっと後に生きてくることも、知らないうちに気持ちに変化をもたらすこともあるでしょう。SIRAでは今後も市内の学校等と連携しながら、国際交流・協力活動を通して青少年育成を行いたいと思います。

市内高校の国際活動の状況 (2007年SIRA調べ)

高校名	姉妹校、交流校のある国	受入留学生の出身国
尚絅学院高等学校	韓国、タイ、オーストラリア、ドイツ	フランス、ポルトガル
聖ウルスラ学院英智高等学校	フランス、カナダ、イギリス、オーストラリア、台湾	ブラジル、ポルトガル
聖ドミニコ学院高等学校	イタリア、オーストラリア	
仙台育英学園高等学校	フランス、アイルランド、クロアチア、スウェーデン、カナダ、ニュージーランド 他	アメリカ、カナダ、中国、ニュージーランド、ケニア、クロアチア、タイ
仙台白百合学園高等学校	フィリピン、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ	アメリカ
仙台市立仙台高等学校	アメリカ	アメリカ
東北高等学校	アメリカ、中国、ブラジル	オーストラリア、ニュージーランド
東北学院高等学校	イギリス	オーストラリア、マレーシア、タイ
常盤学園高等学校	ニュージーランド、アメリカ、イギリス	アメリカ、ハンガリー
宮城学院高等学校	オーストラリア、カナダ、韓国	
宮城県仙台第一高等学校	イギリス	
宮城県仙台東高等学校	オーストラリア	
宮城県第三女子高等学校	フィンランド	
明成高等学校	アメリカ	

みんなの環

[minna no "WA"]

日本 クロアチア
友好協会
仙台支部



恒例の巨理でのイチゴ狩り

日本クロアチア友好協会仙台支部は、1995年に開催された「第2回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」がきっかけとなって、その翌年に設立されました。同国出身の参加者で、当時14歳だったモニカ・レスコヴァルさんが市内のお宅にホームステイしたことから、交流が始まったそうです。

会を支えてきた事務局長の渡辺洋子さんは「クロアチアは海が大変美しい国なのですが、モニカを松島に連れて行ったら、アドリア海みたいだ、と感激してくれたのが印象的でした。今ではテレビで世界遺産が紹介されるようになって日本人観光客も増えていますが、15年位前までは、戦争や危険というイメージが強くて、それ以外の良い面がほとんど知られていませんでした。ガイドブックといった情

報もほとんど無かったことから、仙台からクロアチアを訪れる人たちに資料を提供したり、両国で留学を希望する人たちの橋渡しをしたりしてきました」と、設立から現在までを振り返ります。

現在は芸術やスポーツを通じた交流が多いとのことですが、より多くの人たちに同国を知ってほしいと、現地の豊富な魚料理やスープ、美味しいワイン、大切な人に赤いハート型のお菓子を贈る習慣等、親しみやすい文化も紹介しています。在仙クロアチア人留学生とは、毎年イチゴ狩りに出掛けたりして、交流を深めているそうです。

10月には、仙台支部で初めての訪問団「クロアチア友好親善の旅8日間」を予定しており、同国に興味のある方は、どなたでも参加できるそうです。詳しくは事務局まで。



同地でもよく食べられている、豚肉や長ネギを使った「ベゲッタスープ」



昨年10月に来仙したドラゴ・シュタンブク駐日クロアチア大使の歓迎レセプションでは、会場に同国が吉祥というネクタイやハンカチも並べられた

■主な活動：

- ・クロアチアに関する講演会や報告会の開催
- ・情報提供
- ・クロアチアへの音楽留学生のコンサート開催
- ・ホストファミリーの協力要請

■新規会員募集中：会費：3,000円 / 年

■連絡先：日本クロアチア友好協会仙台支部

事務局 仙台市宮城野区平成1-24-18
TEL:022-235-4207
FAX:022-238-3345
E-mail:yoko@kochan.ne.jp

広告

JICAボランティア 春募集

募集期間：4/8(火)～5/23(金)

仙台第一生命タワービルにて「募集説明会」開催!

★青年海外協力隊 (20～39歳)

4/12(土) 15:00-17:00
4/22(火) 18:30-20:30
5/15(木) 18:30-20:30

「ワークショップで考える! JICAボランティアでできること」
JICAボランティア活動紹介ビデオ 「そして、世界は広がった」上映

ボランティアに興味はあるけど、一体自分にはどんなことができるのか。ワークショップを通して、自分にできる / やってみたい国際協力活動を考えましょう! 思い描いていたイメージと現実とは違うもの。苦勞あり、達成感あり、喜びあり。実際に活動している青年海外協力隊の生の声をぜひお聞きください。

★シニア海外ボランティア (40～69歳)

4/12(土) 14:30-16:30
4/22(火) 18:30-20:30

JICAボランティア活動紹介ビデオ 「そして、世界は広がった」上映

日本での経験を今度は海外で、自分の知識をその国の発展のために。シニア海外ボランティアたちの活動に対する思いを映像で紹介いたします。

【お問い合わせはJICA東北 022-223-4772(ボランティア募集担当 まで)】

広告

英会話・留学なら LSC丸善校・駅前校

月謝制英会話、やり直し英会話、リスニング&スピーキング、TOEFLIBT/TOEIC準備コースなど、英語力UPのさまざまなコースあり。イタリア人専任教師によるイタリア語コース。フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・広東語・韓国語・タイ語ほか。手作り、ネイティブ教師による2～4名のセミプライベートクラスが特徴。

アメリカのNPO教育プログラム：働く①オペアUSA 奨学金②大学70校 交換留学③高校

仙台市青葉区中央1-3-1 丸善アエル店内 TEL 022-225-5161
716-1355

毎日カウンセリング

http://www.lscjp.com
http://www.inforoot.jp/lsc





INTERVIEW

シリーズ

SERIES "HITO"

2007年の夏の終わり、クロアチアのオシエック市で、現地の子どもたちが手作りの扇を手に雀踊りを披露しました。これは「国際文化交流フェスティバル」というお祭り的一幕で、仙台出身の留学生、高橋若菜さんの提案により実現しました。セルビアとの国境近くにある同市は、多くの犠牲者を生んだ十数年前の民族紛争が特に激しかった地域です。そんな同地の子どもたちのために設立されたブレザ*という団体が、4年程前から毎年このフェスティバルを開催しています。企画を無事終えて、年末に一時帰省した高橋さん。仙台でも小学校で国際理解の授業をしたり、市内でソロコンサートを開催したりと、変わらず精力的な活動を見せていました。

クロアチア留学とフェスティバル

私のクロアチア留学のきっかけは、高校の音楽科に通っていたときの修学旅行でした。元々、クラシックの本場ヨーロッパでピアノを学びたいと思っていたのですが、そのときにたまたま主な訪問地だったウィーンの他にクロアチアにも寄りました。そこで訪れたロブランという小さな町にあるイーノ・ミレコヴィッチ音楽院は、海辺にある貴族の別荘だった建物で、美しい海や自然、良い先生が揃っている環境等に魅せられ、留学を決めました。その地域は戦争の被害がほとんど無く、それだけに多くの難民が押し寄せては来たのですが、子どもたちはとても元気で素直で、そこではかつて紛争があった国ということを感じさせませんでした。そこで2年間学び、ザグレブ音楽大学の分校に編入しました。

オシエックのフェスティバルは、ロブランで知り合ったオペラ歌手で、今はザグレブで仕事をしている日本人女性に誘われ、一昨年初めて参加しました。私たちは、日本の歌を紹介するワークショップを行いました。彼女はブレザから声をかけられたのですが、子どもたちからのフェスティバルに関する事前アンケートで、日本文化紹介の希望がとても多かったのだそうです。クロアチアは留学生自体も少ないのですが、特にヨーロッパ以外から来ている人は非常にまれです。英語が比較的通じる国なので、しばらくそれで済ませてきましたが、人間関係をよりスムーズにしたいと滞り3年目くらいから、クロアチア語を勉強し始めました。私のような人がお店等でクロアチア語を話すと、本当に驚かれ



たか はし わか な
高橋 若菜さん

仙台市出身。高校卒業後、2002年よりクロアチアにピアノ留学。国立ザグレブ音楽大学を卒業し、現在同大学研究科にて引き続き学ぶ。

喜ばれます。日本文化については、折り紙や俳句が既によく知られていました。国際文化交流フェスティバルは、子どもたちが将来に希望を持ち、自分の可能性や世界の素晴らしい面に気付くことを目的にスタートしました。基本テーマは紛争が起きない世界という願いを込めた「国境の無い世界」ですが、毎年サブテーマがあって、一昨年は「暗闇の中に光を」、去年は「飛ぶ」でした。国境を飛び越えて、という意味が込められています。ブレザの子どもたちは、参加者ではなくスタッフとなって計画を進め、ポスターやオリジナルTシャツも自分たちで作ります。各国からゲストを迎え、来場者のためにそれぞれの音楽やアートのワークショップが行われます。クロアチアのグループによるワークショップは口ウソク作りで、これは日頃ブレザにいる子どもたちが作業し、フェスティバル以外でも周囲の人たちに教えているものです。暗闇の中で、自分たちが作った口ウソクに明かりが灯るといのは、セラピーとしても良いのだそうです。

2度のフェスティバルを通して

一昨年参加したときに大変印象に残ったワークショップがあって、それはアフリカの伝統的なお面を作る作業と踊りを組み合わせたものでした。考えてみると、茶道とか生け花とか日



クロアチア共和国

[Republic of Croatia]

1991年、旧ユーゴスラビアより独立。

- 首都：ザグレブ
- 面積：56,542km²
- 人口：444万人
- 公用語：クロアチア語



手取り足取りの指導風景



本には独特の面白い文化がたくさんあって、何をしたらもっといいものができるだろうと考えていました。台原小学校で教員をしている母親が雀踊りを教えている話を聞いて、子どもでも覚えやすく参加者にも見る人にも面白いんじゃないかと思いました。日本大使館に問い合わせ費用の助成をしている機関の情報ももらい、昨年実現しました。

ワークショップには募集で集まった20名くらいの子どもたちがいましたが、みんな雀踊りではなく日本という名前の方に惹かれて来たようでした。親世代も興味があるらしく、いつの間にか親や親戚も加わって30人くらいになっていました。おしゃべりが大好きなので、初めはまとめるのが大変でしたが、練習が進むにつれて真剣になっていきました。使用する楽器類は全て手作り、プラスチックの箱にテープを貼って太鼓を作ったり、扇の両面にスプレーで色をつけたりして準備しました。台原小で雀踊りを指導している「六軒丁睦」のメンバーにも指導に協力してもらいました。私は仙台出身なのですが、雀踊りは名前を知っているだけで振りも音楽も全く知らなかったため、ビデオで見て急いで覚えました。

ピアノの勉強のためにクロアチアに来たこともあって、私にとってワークショップも初めてなら、これまで何かを教えたり子どもに接したりする機会もなく、一昨年参加したときは本当に手探り状態でした。今回は参加人数も多く大がかりでしたが、全員で振りを揃えたり、楽器を作ったり、試行錯誤を重ねたりして、また発表後の反響も大きく、終わったときはみんな一つのことを作り上げたという達成感でいっぱいでした。終わってしまって寂しいという参加者も多く、その後ある人が教えてくれたのですが、クロアチアを訪れていた日本人に雀踊りを踊ってみせて、とてもびっくりされたという話も聞きました(笑)。日本の踊りや音楽で、祭りという共通の楽しさを感じてもらったことで、自分の育ったまちに、国に、世界に誇れるこんなに良い文化があるんだと、自信をもらいました。私はこれまでどちらかというと、日本の外に外にと興味が向かう方だったのですが、これを機に、外国の人に喜んでもらうことも素晴らしいことだけれど、たくさんの仙台や日本の人に、自分の身近なところにある文化の素晴らしさにもっと気付いてほしいと感じました。



台原小から寄贈されたはっぴを着て舞を披露

フェスティバルを伝える現地の新聞には、雀踊りの写真が



台原小4年生対象の国際理解授業

雀踊りに取り組む子どもたちの様子を紹介した他、戦争による後遺症等についても一緒に考えた。「遠い国で起きた出来事というだけでなく、日本でも戦争はあった。クロアチア以外にも、国を越えて心を通わせる大切さを伝えたい」と、最後に語りかけた。

ブレザ (Breza)	ホームページ(英語、クロアチア語): http://www.breza.hr/
内戦による後遺症等で子育てや仕事ができなくなった人たちの子どもや、心に傷を負った若者のための施設。生活の場を提供する他、様々な活動を通して社会生活への適応支援を行っている。「ブレザ」とは、病気を癒す力があると同地で信じられている木の名前。	

SIRA

INFORMATION

サイラ インフォメーション

問い合わせ・申し込み

・TEL:022-265-2480
 ・FAX:022-265-2485
 ・E-mail plan@sira.or.jp
 企画事業課まで
 ・ホームページ
 http://www.sira.or.jp/

受講生募集! 日本語ボランティア育成講座

日時(予定): 5月10日~7月26日の毎週土曜日 7月20日(日)、27日(日)、31日(木)
 午前10時~午後3時 講師の都合により、日程が変更になることがあります。

場所: 仙台国際センター 1F 交流コーナー内 研修室

対象: 市内にお住まいかお勤めの方で、受講修了後(要7割以上の出席)、当協会の登録ボランティアとして外国籍市民に相手の国籍等を問わず、日本語の個人レッスンを行うことができる方。

内容: 日本語教育概論(音声学、語彙論、文法)、直説法による実践教授法など。

受講料: 1万2千円

定員: 40名

申し込み: 往復ハガキの往信用裏面に住所、氏名(ふりがな)、電話番号、申込みの動機(150字程度)を、返信用表面に住所、氏名をご記入の上、4月18日(金)【消印有効】までに、〒980-0856 仙台市青葉区青葉山 仙台国際センター内 (財)仙台国際交流協会 「日本語ボランティア育成講座」係宛にお送りください。応募者多数の場合は選考とさせていただきます。

講座説明会

日時 4月12日(土)午前10時~12時

会場 仙台国際センター 1F 研修室
 ※直接会場へ

問い合わせ (財)仙台国際交流協会
 TEL: 022-265-2480



補助金事業のご案内

SIRAでは市民のみなさんの自主的な国際交流・国際協力活動や異文化理解の促進をはかるため、市民団体の国際交流事業に補助金を交付しています。補助金を受けるための要件や手続きは、企画事業課までお問い合わせ下さい。

■平成20年度の申請スケジュール(受付は平日9:00~17:00)

	受付期間	事業実施期間
第2期	5月1日~30日	事業の実施期間の初日が7月~翌年3月までの事業
第3期	8月1日~29日	事業の実施期間の初日が10月~翌年3月までの事業
第4期	11月4日~28日	事業の実施期間の初日が翌年1月~3月までの事業

予算の残額がなくなった場合には、次期以降の受付を行わない場合があります。 第1期の受付は、2月に終了しました。

報告 2007年度のSIRAホストファミリー交流会

2007年度は63家庭がホストファミリーとしてSIRAに登録し、レンヌ青少年、光州広域市高校生、セルクル・セルティック(レンヌ市民舞踊団)のホームステイの受け入れを行いました。

1月19日(土)、数家庭のホストファミリーが集まり、互いの体験を語り合い、交流しました。

「日本のこと、仙台のことなど詳しく聞かれて答えに窮することもあったが、普段意識しないことも考えさせてくれたので、こちらもよい勉強になった」「和室もないし、着物も着せてあげられないけど、現在の日本の住宅事情はこんなもの、気負わずに受け入れました」等、率直な意見交換があり、スケジュール調整に苦慮しながらも、限られた時間を楽しく過ごされた様子が見られました。

ホストファミリーとして登録したものの、日程が合わなくて受け入れができなかった方も、体験者の話に熱心に耳を傾け、「次回はぜひともホストファミリーをしてみたい!!」という気持ちを強くしたようでした。

現在のところ2008年度の国際姉妹都市からの市民団来仙予定はありませんが、今後、ホームステイの活動があればSIRAのホームページや『SIRA WIND』、『交流コーナーだより』でその都度ホストファミリーの募集を行います。



報告 SIRA座談会

SIRAでは毎年、仙台に住む外国籍市民が日常抱えている問題等について情報や意見の交換を行い、今後の事業等に反映させるため、様々なテーマで座談会を開催しています。今年の1月から2月にかけて「外国籍市民団体の部」、「生活情報提供の部」、「交流コーナー利用の部」とテーマ別に3回開催され、それぞれ外国籍市民団体の代表者やメンバー、在仙留学生や留学生への情報支援団体関係者、交流コーナー利用者等に参加いただき、日頃感じていることやSIRAに望むこと等について話し合いました。

座談会の主な内容は、当協会ホームページの「事業報告」に掲載しています。

報告 国際理解教育・開発教育のためのワークショップ体験セミナー&ファシリテーター養成講座[入門編]

国際理解・開発教育のワークショップ(参加型学習)を実際に体験し、ファシリテーター(進行役)としての技術を学ぶ講座を2月23日(土)、24日(日)に開催しました。講師にかながわ開発教育センター理事の木下理仁さんを迎え、約20名が参加しました。

1日目は「異文化理解」「国際協力」「多文化共生」のテーマのワークショップを体験し、楽しい、面白いだけではなく、参加型学習の効果や可能性を実感していただき、2日目には教材の使い方、実践にあたっての心得などを学び、4名の参加者がファシリテーションに挑戦しました。終了後は「参加者の年齢層や職業が偏らず幅広いため、いろいろな意見を聞いてよかった」「ワークショップは楽しかったが、自分で進行してみると想像以上に難しかった」などの意見が寄せられました。また、「1日目は自分と違う意見を素直に受け入れることができなかったが、2日目には自分から耳を傾けていた」と、自らの変化に気づく方もいたようです。「ファシリテーションを実践してみたい」「更に勉強してみたい」との声も多く、参加者にとって充実した2日間であったようです。

SIRAでは2008年度に中級編の開催も予定しております。



(ワークショップ体験『国際協力』から)「ストリートチルドレンを助ける9つの方法」を1人ずつランク付けをし、その後2人ペアで意見交換し、最後に小グループで協議した結果を発表しました。

報告 オーストラリア多文化共生スタディツアー

SIRA主催のスタディツアーとして、2月12日から19日まで「多文化共生」をテーマにオーストラリアを訪問しました。私達が現地に到着した2月13日は、首都キャンベラの連邦議会でケビン・ラッド首相が先住民アボリジニに公式謝罪した歴史的な日となり、国中が沸いていました。スタディツアーの日程は、ニューサウスウェールズ州多文化地域社会関係委員会(CRC)の協力を得て企画し、英語を母語としない学生が99%にもなる公立学校や高齢者や子どもへの福祉サービスを行う民間団体等、様々な機関や施設を訪問しました。参加した10名のメンバーは、多文化共生や異文化を学ぶ大学生や、外国籍市民支援に関わるボランティア活動や仕事をする社会人の方々と、それぞれの参加目的がはっきりしていたため、各訪問先では熱心な議論が行われました。

「Trial and Error(失敗を恐れず、まずやってみよう)」オーストラリアではこの考え方が一般的とのこと。ツアー中に会った移民コミュニティやそれを支えるボランティアの方々、困難な状況にありながらも、前向きに協力しながら暮らしていることがわかりました。参加者のみなさんには、今回得た情報やノウハウを活かして、地域での活動に取り組んでいただきたいと思います。今回のスタディツアー報告書を当協会ホームページで公開し、仙台国際センターにて配布していますので、興味のある方はぜひご覧ください。



澳洲華人服務社にて

主な訪問先

- 2/13 ・CRC、コミュニティギャラリー(エストニア系移民の歴史)、海洋博物館
- 2/14 ・パンチボウル高校、イスラム教寺院、移住者情報提供センター、澳洲華人服務社(保育と高齢者サービス)
- 2/15 ・シティウォッチ(警察とコミュニティの協働)、ユース・カフェ(青少年の取り組み)、サイプラス・クラブ(キプロス・ギリシャ系移民について)
- 2/16 ・ウロンゴン主要地域センター(工業地帯の労働者移民とイタリア系移民の活動)
- 2/17 ・ラ・ペルーズ博物館(フランスからの航海者とその軌跡)
- 2/18 ・アボリジニクルーズ(先住民文化について)、国際交流基金シドニー事務所

仙台国際センター NEWS

イベント
レポート

外国人留学生のための
キャリアスタートアップ合同企業説明会

卒業後も日本にとどまり、日本企業への就職を希望する外国人留学生は年々増加しています。そのような留学生への就職活動支援を目的とした合同企業説明会が、独立行政法人日本学生支援機構東北支部の主催により、1月18日に仙台国際センターの展示・レセプションホール桜を会場に開催されました。

留学生と企業のマッチングの場と位置づけられた今回の説明会には、180名を超える多くの東北地区の外国人留学生と、その採用を見込む企業36社が参加しました。熱気に包まれた会場内では、留学生がそれぞれ積極的に関心のある企業のブースを訪れ、担当者の説明に熱心に耳を傾けながら情報収集をしていました。

参加した留学生からは「参加して本当によかった」「日本での就職活動に不安があったが、自信がついた」等の感想が多数寄せられ、同機構は「来年度も関係機関との連携を図り、参加企業を増やす等、より充実した留学生支援事業を実施していく予定です」と話をされていました。



[使用会場] 展示・レセプションホール桜 (平場755㎡)
展示会、各種レセプション、講演会など多目的にご利用いただけます。

(財) 仙台国際交流協会は、仙台国際センターの管理・運営を行なっています。会議室ご予約等のお問い合わせは、総務課施設係までどうぞ TEL:022-265-2450 FAX:022-265-2485 E-mail:sic@sira.or.jp より詳しい情報は、ホームページをご覧ください。http://www.sira.or.jp/icenter 4月から6月の休館日：4月7日、5月1日～2日、6月9日は休館とさせていただきます。ご了承ください。

このゆびとまれ!
今日も JICA びより
ジヤイカ

～仙台国際協力サポーター～

●話を聞いてみよう! <JICA仙台デスク>

JICA仙台デスクは国際協力の身近な窓口として仙台市のみなさんのご質問・ご要望にお答えします。下記の連絡先からお気軽にお問い合わせください。

●調べてみよう! <JICAホームページ>

関心を持ったら早速調べてみましょう。まずはJICA東北のホームページをご覧ください。

●地域で参加したい! <勉強会・イベント>

国際協力について楽しく学べる勉強会や地域のイベントへのブース出展なども多数行っています。イベント情報は下記ホームページをご覧ください。

イベント開催報告

去る2月16日、太白区中央市民センターにて開催された「国際協力推進員がいます。お気軽にお問い合わせください!」にJICAブース「青年海外協力隊が長町にやってきた!」を出展しました。元青年海外協力隊で現在は八木山動物公園飼育係の田中ちひろさんを講師にお迎えし、国際協力出前講座「ゴリラから世界が見えてくる」などを開催しました。



はじめよう! ~自分にできる国際協力のすすめ~

春はご卒業、そして新たなスタートの季節です。何か新しいことにチャレンジしたい思われている方、“国際協力”について一緒に考えてみませんか。

●途上国で活動したい! <JICAボランティア>

日本から途上国の国々へボランティアを派遣しています。まずは説明会にご参加ください。春募集説明会の詳細は4頁広告を参照願います。

種別	募集時期
青年海外協力隊、シニアボランティア	春・秋(年2回)
日系社会青年ボランティア、同シニアボランティア	秋(年1回)

JICAボランティア募集要項を配布しています!!

ボランティア春募集の期間、ポスター&写真展を開催します。お気軽にお立ち寄り下さい。とき：4月14日から5月11日 9時～20時 ところ：仙台国際センター交流コーナーギャラリー

仙台市の皆さんのJICA窓口として国際協力推進員がいます。お気軽にお問い合わせください!

JICA仙台デスク TEL:022-265-2449 (仙台国際交流協会事務室内)

JICAプラザとうほくHP http://www.jica.go.jp/tohoku/

Let's
Go!

交流コーナーへ行こう!

活動編

研修室・ワークショップを利用してみませんか?

交流コーナー内には、講演会、勉強会等ができる「研修室」と、少人数でのミーティングや印刷等の作業ができる「ワークショップ」があるのをご存知ですか? 登録いただいた国際交流・協力の分野で活動する団体に、研修室とワークショップを無料でお貸ししています! 現在さまざまな活動団体が、セミナーや勉強会、交流会などに利用しています。ぜひお気軽に交流コーナーまでお問い合わせください!!



■研修室・ワークショップの広さと利用可能な設備

研修室A(約100㎡45席): 映像機器・演台・スクリーンなど

研修室B(約105㎡45席): 調理台・調理器具・食器類など

ワークショップ(約44㎡作業室): 印刷機(1製版100円)・作業卓など

■利用時間 9:00 20:00(仙台国際センター休館日、交流コーナー閉室日を除く)

■利用条件 所定の様式により、利用団体登録を行っていただきます。

■利用申し込み 希望の都度、所定の用紙で交流コーナーに申し込んでください。(FAX可)

お知らせ

「Sendai Hospitals & Clinics」の改訂版を発行しました。こちらは、外国籍市民の方に交流コーナーで無料配布していますので、旧版をお持ちの方にもぜひお知らせください。



外国語での受診が可能な医療機関リストを掲載! いざという時に役立ちます。ホームページでもご覧いただけます!

http://www.sira.or.jp/japanese/foreigner/hospital/hospital_4_regarding.html

交流コーナー(仙台国際センター1F) 9:00～20:00 TEL:022-265-2471 FAX:022-265-2472 E-mail:info@sira.or.jp

JAWHM 日本ワーキング・ホリデー協会 仙台デスク四季だより

よく分からない方のために…
ワーキング・ホリデーとは?



写真提供:スカンジナビア政府観光局
2007年10月デンマークとのワーキング・ホリデーがスタートしました。

ワーキング・ホリデー制度は、もとは英連邦構成国の若者の交流のために始まった制度で、日本では1980年にオーストラリア政府との間で協定が締結され、現在は9ヵ国との間で実施されています。この制度の目的は、若者(18歳～30歳)が外国に長期滞在し、相手国の文化や生活様式を理解し、相互に友好関係を築いていくことにあります。

ワーキング・ホリデービザでの滞在期間は1ヵ国につき最大1年間(オーストラリアとニュージーランドに関しては特例があります)です。その間滞在費を補うために働くことが認められています。通学や旅行、ホームステイ、ボランティア、アルバイト等、滞在スタイルを自由にアレンジできるのがこのビザの大きな特徴です。ワーキング・ホリデービザの発給条件や申請手続きの方法は国によって異なります。申請に関しては各国大使館のホームページ等で確認しましょう。

(締結国:オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、韓国、フランス、ドイツ、イギリス、アイルランド、デンマーク)

ユニークなアルバイト体験例

- その1: オーストラリアの真珠養殖場で働いた。船上生活で見たイルカの群れや満天の輝く星が忘れられない!
- その2: ニュージーランドのじゃがいも畑や果樹園等ファームステイを転々とした。小さな農場で家族の温かみに触れた!
- その3: カナダで露店を出し、和風の小物入れやマグネットを売り、漢字で名前を書くパフォーマンスをした!
- その4: フランスの建築設計事務所設計競技の仕事に加わった。仕事の合間に数多くの建築巡りをした!
- その5: イギリスの四つ星ホテルのフロントで働いた。失敗や苦しい思いを繰り返し、英語と接客業の勉強になった!



(社)日本ワーキング・ホリデー協会 仙台デスク TEL:022-265-2482 URL http://www.jawhm.or.jp

火曜日(月2回) 10:00～16:00・土曜日9:00～17:00 不在の場合または来日青年への職業紹介は東京本部 TEL: 03-3389-0181 日曜日・月曜日(休)

(社)日本ワーキング・ホリデー協会(JAWHM)は、厚生労働大臣の認可を受けて設立された公益法人で、ワーキング・ホリデー制度を支援し、促進している日本で唯一の公的な機関です。ワーキング・ホリデー制度を利用して渡航を希望する方や来日している外国人へのサポート、帰国者への就労支援を行っています。

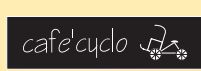


プロが教える

お手軽レシピ!

トバイフラン [ベトナムプリン]

定禅寺通を少し北に入ったところの「カフェシクロ」は、日本米の麺を使ったフォーや、昆布で出汁をとったスープ等、日本とベトナムの美味しさを味わえるお店です。ラーメン屋さん横の通路を少しためらいつつ進んでいくと、庭園風の空間が。その奥によく看板が現れます。初めてお店に行くときは、短いながらもちょっとした冒険気分も味わえそうです。「ベトナムは米の文化で食材に共通点が多く、日本人に親しみやすい料理が多いです。練乳を使ったこのプリンも、コーヒーと相性が良くて、甘いものが苦手な人でもOKなのでは」と、お店の石田一也さん。以前は日本料理を作っていたという、お母さんの孝子さんが料理を作っています。



カフェシクロ
仙台市青葉区国分町3-2-10 1F
TEL:022-265-1880



■材 料(5人分)

カラメルソース

きび砂糖:20~30グラム
水:30cc程度
バター少々

プリン

全卵:1個、卵黄:2個分
牛乳:200cc
無糖練乳(エミル):100cc
砂糖:75グラム
バニラエッセンス:適宜

トッピング

アイスコーヒー(無糖)
氷:適宜

■作り方

カラメルソース

1. フライパンを熱し、中火できび砂糖を炒める。
2. 軽く焦げてきたら水を加えて溶かし、完全に溶けたらプリン用の器(事前にバターを塗っておく)に移して冷やす。

プリン

1. 全卵、卵黄、砂糖をよく混ぜておく。
2. 牛乳と無糖練乳を合わせて弱火で人肌程度に温め、バニラエッセンスを加える。
3. ②を3回に分けて、少しずつ①に入れて混ぜる。
4. ③をカラメルソースの入ったプリンの器に、澆しながら注ぐ。表面の泡はできるだけ取る。
5. 天パンに水を張り160℃に熱したオーブンで、35分焼く。
6. 粗熱を取り、冷蔵庫で冷やす。

器にプリンをあげ、上からアイスコーヒーと砕いた氷をかけて出来上がり。



今回のお料理を
紹介して下さった方

石田孝子さん(左)
一也さん
(日本)

プレゼント!

今号の『SIRA WIND』は、いかがでしたか。ご意見・ご感想をお寄せください。

ご住所・お名前・『SIRA WIND』をどこで入手されたかをお書き添えてください。

5月1日までにお送りいただいた方2名様に、写真のクロアチア・ハート型クッキーペンダントをプレゼントいたします。

食べられません。 応募多数の場合は抽選となります。



あて先

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山 仙台国際センター内 (財)仙台国際交流協会 事業推進係
FAX:022-265-2485 E-mail:plan@sira.or.jp

編集後記

ある吹雪の日に、取材で訪れた高校。放課後の生徒たちが、敷地内の凍った坂を滑っては転び、また上りとはしゃいでいました。少し意外で微笑ましく、縮こまって歩いていた自分も熱気と若さ(?)をもらって帰って来ました。さて、久々に冬らしかった今年の冬も終わり、春の喜びもひとしおです。広瀬川周辺や青葉山の桜、濃さを増す緑、大橋そばに咲きこぼれる初夏の金糸梅...、当センターまでの道は、これからますます多彩に私たちを迎えてくれます。散策に、会議に、交流コーナーに、皆様のご来館をお待ちしています。(荻)



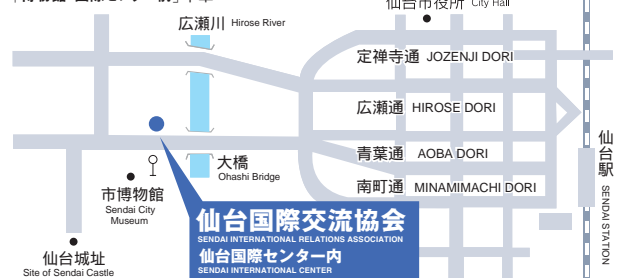
1,000名収容の大ホール、755㎡の展示・レセプションホール、合計で12の大・中・小会議室を備えた青葉山のふもとに国際会議場。学術・文化・経済など多彩な分野の催しに最適な会場をご提供致します。会場のLAN設備、インターネットのご利用も可能です。

仙台国際センター
SENDAI INTERNATIONAL CENTER

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山(無番地)
TEL:022-265-2211(代表)
FAX:022-265-2485
E-mail:sic@sira.or.jp
URL:http://www.sira.or.jp/center/

■交通のご案内

仙台駅前バスプール 番乗り場から「710 宮教大・青葉台」「713 宮教大・成田山」「715 宮教大」「719 動物公園循環(青葉通・工学部経由)」「720 交通公園・川内(営)」のいずれかに乗り「博物館・国際センター前」下車



財団法人 仙台国際交流協会
SENDAI INTERNATIONAL RELATIONS ASSOCIATION

編集・発行
財団法人仙台国際交流協会
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山
仙台国際センター内
TEL:022-265-2480
FAX:022-265-2485
E-mail:plan@sira.or.jp
URL:http://www.sira.or.jp/